

令和4年度 第3回子ども部会

日 時：令和4年12月9日（金） 11:00 ～ 12:00

場 所：奄美市市民交流センター3階 大多目的室

参加者：愛かな、聖隷かがやき、にこぴあ、のぞみ園、ヒマワリクラブ、
チャレンジサポート奄美、相：のぞみ園、奄美市教委、
大島養護学校、鹿児島県こども総合療育センター、
名瀬保健所、奄美市福祉政策課、奄美市健康増進課、
龍郷町子ども子育て応援課、ぴあリンク奄美

オンライン：ここ園、瀬戸内町保健福祉課



計 23 名（内オンライン 4 名）

1. 参加者自己紹介

2. 情報提供

「これからのかごしま県地域包括支援システム・体制づくり」

鹿児島県子ども総合療育センター：上野 幸太 氏

※療育センターとして、今後地域の支援体制づくりを強化していきたい。

【今後の主な取り組み】：別紙資料にて説明

○相談支援専門員との連携強化

○相談支援専門員等の参画により支援体制構築

○紹介表/連絡票を活用した受診申込システムの地域支援への活用

→奄美地区でも、チャレンジサポート奄美を中心に「医療機関との連携」や「療育ネットワーク」などの任意団体もあると聞いている。始良市モデルを参考に、地域独自のシステムを作り上げてもらいたい。

3. 協議事項【課題と感じている事/話し合いたい事】

○奄美地区における発達検査について

【現状報告】

※チャレンジサポート奄美

- ・就学前のアセスメントの状況についての意見が就学支援委員会でも出されている。
- ・就学前の相談支援体制や発達検査について、行政機関（保健師）、保育機関、療育機関など関係者で、話し合いを行う必要がある。
- ・関係のある心理士に協力していただき、発達検査（見立ても含む）を行う事ができる、OT や ST を地元で育成する体制づくりを検討している。

※奄美市教育委員会

- ・地域課題として、福祉と教育の連携におけるズレがある。
- ・「どこが」「だれが」つながるかという事が大切。始良市の連携の取り組みを参考にできたらよい。（部署間のつながり）

※大島養護学校

- ・発達検査などは行っていないが、分析については協力している。
- ・学校単体でも、巡回相談を行っている。活用を。（幼稚園は行っているが、保育園からの相談は少ない）
- ・最近、中学から高校へのつながりにも力を入れてきている。（「得意な事、苦手な事シート」の活用）

【意見交換】

□奄美市（健康増進課）

- ・就学前の困りについて相談を受けることがあるが、就学直前にならないと、保護者も動かないことが多い。
- ・今年度より各保育園に、5歳児の課題に関するチェックリストを配布し協力依頼。園や保護者の気づきにつながるように取り組んでいる。チェックリストをもとに、保育園や幼稚園より相談希望があれば保健師が巡回。相談を受け、発達検査や親子教室にお繋ぎしている。⇒以前行っていた「やちばう相談」が変化した形

□瀬戸内町

- ・瀬戸内町では、療育に繋ぐ際の難しさを感じている。（保護者の理解が得られにくい）
- ・以前は5歳児に対して、健診を行っていたが、現在は困り感に関するシートを配布。困り感がある場合は相談対応している。

□龍郷町

- ・龍郷町では、早期療育を事業所に依頼。保育所への訪問、年長児の親子教室を開催していただいている。保護者理解を遊びの中で広げ、気づきにつなげやすい体制づくりを行っている。

□関係事業所

- ・中学でWISCを受けた子どもさんの情報が高校に繋がっていないかったという事もあった。作成された情報がしっかりつながる仕組みづくりができればよい。
- ・就学前にの取り組み（移行シート作成や、就学前幼保小連絡会）をおこなっているが、提供された情報について、入学後の連携の際、先生方が知らないということが多いように感じる。（障がい名や特性など）
⇒学校内での繋ぎについて疑問を感じてしまう。
- ・特別支援コーディネーターも異動があり、それぞれで支援の動きが変わる。決められた役割について疑問を感じる。
- ・学校機関と繋がるのは良いことであるが、繋がった後の流れが気になることが多い。
- ・幼保の先生方も世代交代し、ベテラン職員が減ってきている。「気づき」の視点で支援できる方が少なくなっている。
- ・誰でも出来るアセスメントシートはよい。出来る部分だけでなく、気持ちに関するアセスメントが必要。
- ・行政機関内で「福祉」と「教育」の連携を図ってほしい。連携の課題や取り組みの共有が必要。

○奄美地区における言語訓練について

【情報提供】

※チャレンジサポート奄美

- ・県療育等支援事業にて、定期的に県病院でもぐもぐ相談を開催している。最近は半年程度、言語訓練をうけたら改善できそうな子どもさんや「就学前相談の際に発音を指摘された」などの子どもさんが増えてきている。
- ・最近は共働きの方が多く、名瀬小学校の「ことばの教室」に定期的に通う事が難しくなっている。（送迎が必要）ニーズも増えてきて対応も難しくなっているが、地域には支援が足りない。
- ・地域に言語聴覚士（ST）はいるが、小児科がないため、訓練を指示してもらえず、どの病院も受入れが難しい状況。今後、地域の課題として共有しておきたい。

4. その他

○今後の行事について

- ・第3回そだちサポート研修&交流会（12/23）
- ・南部地区子ども支援 net（R5/1/13）
- ・第5回そだちサポート勉強会（R5/1/20）
- ・第6回そだちサポート勉強会（R5/2/10）